

学童期を対象にしたネット(SNS等)の安全な使い方 〜学校現場から〜

小学校の低学年からすでにスマホを持つ時代。使い方ひとつ間違えれば重大なトラブルを引き起こしかねないツールでもある。リスクを回避するためにできることは何か。小学校教諭の目から見た報告。



松下 隼司 (まつした・じゅんじ)
大阪市立豊崎小学校 教諭

SNSの「使用上の注意」を知らない子どもと保護者

担任する学級内で、スマホを持つ子どもの割合が増えている。また、その低年齢化も進んでいる。小学1年生からスマホを持つている子どもも驚かなくなった。

子どもたちはスマホで、SNSやオンラインゲームをしている。子どもたちがよく使っているSNSは、LINE(ライン)やInstagram(インスタグラム)、TikTok(ティックトック)、そしてYouTube(ユーチューブ)である。これらのSNSがきっかけで、喧嘩(けんか)やいじめのトラブルになることもある。

しかし、SNSの使用には年齢制限や推奨年齢がある。InstagramとTikTokは、13歳未満の利用は禁止されている。LINEは、青少年保護を目的に12歳未満の利用は推奨されていない。YouTubeも13歳未満はアカウントを作成できない。この年齢制限と推奨年齢を知らないで利用している子ども(とその保護者)が多い。

また、オンラインゲームも対象年齢が

ある。このことも同様に知らない子ども(とその保護者)が多い。小学生に大人気のオンラインゲーム「フォートナイト」は、自分を守るための武器を探し、他のプレイヤーと戦う(殺す)という過激な内容のゲームである。この過激なオンラインゲームをプレイ中に、子どもたちは「死ね!」「殺す!」などの暴言を吐く。

そこで、子どもたちに授業でSNSやオンラインゲームの年齢制限・推奨年齢・対象年齢のことを教えている。すると、子どもたちから、

「え〜! 先生、知らなかった!!」

という感想が次々に上がる。懇談会で保護者に話したときの反応も同様である。

SNSの良い面と悪い面を理解すること

もちろんSNSは悪い側面だけではない。たとえばLINEは、家族や友だちと連絡をとりやすい。学校の持ち物や行事で分からないことがあるときに、気軽に友だちにLINEを使って確認することができる。風邪で休んだ日の学校での

学習内容を友だちにLINEで聞くこともできる。

また、面と向かっては、「ありがとう」や「ごめんね」を素直に言うことができないなくても、LINEを通じてだったら伝えられるときもある。そうした良い面もLINEにはある。友だち同士で1対1でLINEのやりとりをしていても、それほど大きな喧嘩やいじめのトラブルは起きにくい。

しかし、重大なトラブルがよく起こるのが、子ども同士の「グループLINE」である。気にくわない友だちだけ参加させなかったり、退会させたりする。悪口を書き込んだり、「死ね」「殺す」などの暴言が気安く書き込まれることもある。そうした危険性を知った保護者は、グループLINEには入らないことを子どもと約束をしている。このことを懇談会や授業で、保護者や子どもにも伝えることで、LINEをきっかけにしたいじめ予防をしている。